

令和7年度外部評価委員会(R8.1.16)の主な意見等

No		内容
1	教育方針	農大としてどのような学生を育てていきたいか明確にする必要がある
2		農業高校との連携の中で、トータル5年間でどのように育成していくのか検討してはどうか
3	教育内容・ 教育方法	生成AIの活用をどのようにするか検討が必要。また、スマート農業などのデータをどのように教育に活用するか検討が必要。
4		目上の人に対する常識がない子どもが多い
5		集落営農組織を含めて、経営者育成の視点も大事ではないか
6		学習意欲について、学生が二極化している。講師はどのレベルに合わせていけば(どのように評価していけばいいか)いいか悩んでいるのではないか
7		教育のユニバーサルデザイン化が必要かもしれない(UD化:障害の有無や得意・不得意に関わらず、すべての子どもが最初から「わかる・できる」授業を目指し、環境や指導方法を工夫すること)。授業目標の明示やすべての学生に対応した指導、対話型授業が必要。
8		SNSの発信頻度をもっと高める必要があるのでは。学生も情報発信に関われれば、マーケティングの学習にもなるのではないか
9		農業の魅力を伝えられるような講師を呼ぶべき
10	入学者確保	キャリアパスを具体的に見せるため、オープンキャンパスなどで卒業生などに来てもらって話をしてもらうことが良い
11		入学者が大幅に減少していることは課題。魅力発信や普通科からの入学促進などが必要
12		農業の現実的な課題を認識しつつ、親世代の説得が課題
13		大学校へ入学してのメリット「技術だけでなく、今までにない新しい資格取得」を前面に打ち出してはどうか
14		SNSについてはどうがもアップした方が魅力が伝わる
15		生徒の募集については、就職就農が他企業への就職と比較して何が異なるか具体的に示すことが必要。
16		自営就農した卒業生からの話を高校生に聞かせることができれば魅力ある仕事として認知されるのではないか。
17		農業高校の保護者でも農業を仕事としてやっていくことについてイメージがないと考えられる。
18	進路支援	新規就農の投資が高額である。辞められるかたの資材をもらうなどといった情報やネットワークがあるとよい。
19		いきなり自営はハードルが高い。最初の5年間は厳しい。一旦法人就職し、夢を持ちながら、自営ができるようになるなど中長期的なキャリア形成ができるようにしてはどうか。また、同期のネットワークの活用も重要。
20	教育環境	学ぶ環境整備のための校舎の建て替えを進めて欲しい